

2008 年 10 月 1 日 NEWS RELEASE No.47

10月1日、『醤油の日の集い』開催！

「平成20年度 醤油文化賞」はマンガ『もやしもん』に贈呈！

しょうゆの価値の高揚、しょうゆを通しての食文化の啓発、優れた学術研究等に功績のあった個人や団体に対し贈られる「平成20年度 醤油文化賞」は、コミック誌「イブニング」に連載中の『もやしもん』（作者 石川雅之氏）に贈られます。

10月1日の「醤油の日」を記念してパレスホテルで開催される『醤油の日の集い』（主催：日本醤油協会、全国醤油工業協同組合連合会）において、発表並びに表彰式が行われます。

この「醤油文化賞」は、「醤油名匠顕彰」と併行して行われている顕彰制度で、洋の東西を問わず、しょうゆの価値の称揚、しょうゆを通して食文化の伝承に尽力された方あるいは、しょうゆに関する学術研究に功績のあった方を広く業界の内外から推薦をいただき、選考する顕彰制度です。

石川雅之氏原作のマンガ「もやしもん」は、コミック誌「イブニング」に連載中で、微生物が肉眼で見え、さらに会話をすることも出来るという特別な能力を持った少年を主人公として、その大学生活を描いた物語です。本年、「第12回手塚治虫文化賞」：マンガ大賞、「第32回講談社漫画賞」を立て続けに受賞され大きな話題となりました。また、「イブニング」でしょうゆを扱った号の単行本が12月22日に発売される予定です。昨年10月～12月、フジテレビの「ノイタミナ」で放送されました。

「もやしもん」は、「発酵」や「醸造」、「微生物と人間との係わり」、そして、醸造食品に関する専門的な内容をマンガというメディアを通じて若者層を中心に分かりやすく伝えていただきました。よって、しょうゆの素晴らしさ、奥深さを若者に啓発していただいた功績を称え「平成20年度醤油文化賞」を贈り顕彰します。



石川雅之氏は海外出張中のため、講談社イブニング編集部編集長の梶原和哉編集長が受賞者代理として表彰式に出席。日本醤油協会濱口道雄会長（左）とともに。

<主な受賞他>

- 「第12回 手塚治虫文化賞」マンガ大賞を受賞（2008年）
- 「第32回 講談社漫画賞」受賞（2008年）

- コミック誌「イブニング」（講談社）に2004年から長期連載中。
- コミック誌「イブニング」の単行本発行中（本年12月22日発売号に、「しょうゆ」の掲載頁分が単行本として発行予定。
- テレビアニメ「ノイタミナ」（フジテレビ系全国（フジテレビ、関西テレビ、東海テレビ他／木曜24：45～＜30分：全11話＞）が昨年10月～12月に放送された。

<参考> これまでの「醤油文化賞」受賞者

■「平成14年度 醤油文化賞」 川口順子外務大臣（当時）

2002年、カナダで開催されたG8外相会合閉会後の共同記者会見に臨んだ川口外相は、中東和平プロセスでの日本の役割を「すしを醤油なしで食べることは可能だが、醤油があって完璧になる」と国際政治の舞台で、しょうゆをたとえに使った絶妙の表現で、世界に日本の存在感をアピールした功績は、しょうゆの深い理解をベースに、しょうゆの価値を広く世界に披歴していただいた功績に対し「醤油文化賞」を贈呈しました。

■「平成16年度 醤油文化賞」 社団法人 栄養改善普及会（会長 近藤とし子氏：当時）

（社）栄養改善普及会の「食・農・教育の一体化」を理念とする「栄養三色運動」及び「健康を守る活動」は、食育推進活動そのものであり、わが国の食生活改善に大いに寄与してきた。特に醤油業界との関係は長く、醤油をテーマにした高校生の研究活動「I & YOU 食生活」や生産者と消費者を結ぶ「食のゼミナール」で、醤油を重要なテーマとして取り組んできた。醸造調味料・醤油の価値を称揚していただきました。

■「平成19年度 醤油文化賞」 故木村尚三郎先生（東京大学名誉教授）

醤油業界との関係は深く、常に、醸造調味料・しょうゆを日本の食文化の原点と位置づけ、食文化の面より示唆に富んだ適切な助言をいただきました。平成13年に立ち上げた醤油PR事業では、同年の「醤油PR事業発足披露パーティー」の特別記念講演において、「醤油文化の二十一世紀」と題したご講演をいただきました。また、平成14年からは「醤油名匠」の審査委員を担当していただきました。

以上の件に関する取材のお問合せは

しょうゆ情報センター （醤油PR協議会）
小倉 克彦（事務局長）、中川美代子
住所 東京都中央区日本橋小網町3-11（〒103-0016）
電話 03-3666-3286 FAX 03-3667-2216
URL : <http://www.soyssauce.or.jp>E-mail soyic@soyssauce.or.jp